CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 2014年版

（仮称）今井運送株式会社五日市港物流センター新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1　建物の熱負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 事務所に関して、適切な室内環境及び室温等を検討した。	1.0	1.00	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	0.0	0.00								
	4.0	0.00	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制				
小計	1.0	0.03								
1.2　自然エネルギーの利用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 自然エネルギーの利用は現在検討していない。	0.0	0.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用				
小計	0.0	0.00								
1.3　設備システムの高効率化										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ モデル建物法BEImにて0.42の一次エネルギー消費量となっている。	4.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	4.0	0.38								
1.4　設備システムの効率的運用										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください 年間に渡って、エネルギーの消費量を把握する。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング		
	2.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制		
小計	2.5	0.15								
1.5　資源・マテリアル対策										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ リサイクル資材を2品目は使用する。（屋内用品（床・壁材））	1.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	3.1	0.32								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください ライフサイクルCO2排出量が一般的な建物に対して50%以下とする。	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	5.0	0.13								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.5	0.70								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 緑地については、広島港五日市地区の工業団地緑地の適用となり、団地緑地にて緑化を満たしている。	2.0	0.52	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	2.0	0.26	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	2.0	0.22	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	2.0	0.97								
2.2　交通負荷抑制										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場（敷地内空地部分）を適切に確保している。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	2.0	0.22								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。 1階は30,000N/㎡、2階は3,500N/㎡を確保し、耐用性を満足させる。	3.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性
	3.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	2.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	2.9	0.58								
3.2　設備の更新性										
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 設備の更新時には躯体と内装仕上げを容易に解体出来る軽鉄間仕切りにて計画している。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.42								
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	2.9	0.08								
■重点項目の総平均（上記3項目）	3.2									